

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1495600171
法人名	ルミナス株式会社
事業所名	グループホームひかり川崎麻生
訪問調査日	2016年3月10日
評価確定日	2016年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495600171	事業の開始年月日	平成23年5月1日	
		指定年月日	平成23年5月1日	
法人名	ルミナス株式会社			
事業所名	グループホームひかり川崎麻生			
所在地	(〒215-0012) 神奈川県川崎市麻生区東百合丘1-14-8			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成28年2月25日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域と密着したホームを目指し、今年度は地域包括支援センターの主催のもとホームにて毎月「ひかりカフェ」（認知症カフェ）を行なった。 ・スタッフはOJTシートを利用しながら、キャリアアップ制度において向上に励んでいる。新卒者は3月に社内の事例発表会に向けて取り組みを行なっている。 ・毎月の外出行事も今年度は季節を感じられる「お花見」や今年度は「イルミネーション見学」で夜の時間帯の外出にもチャレンジした。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成28年3月10日	評価機関 評価決定日	平成28年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●この事業所の経営法人はルミナス株式会社です。同法人は東京で1ヶ所・神奈川で4カ所・千葉で2ヶ所・山梨県で1ヶ所の計8カ所のグループホームを展開しています。ここ「グループホームひかり川崎麻生」は神奈川県で4番目に開設した新しい事業所です。この事業所は、小田急線新百合ヶ丘から10分ほどバスに乗り、「中の台バス停」徒歩1分のみ分りやすい場所に位置しています。周囲は戸建て住宅を中心とした閑静な住宅街で、事業所の2階建て建物も地域に溶け込んだ佇まいです。また、事業所は高台にあり、天気の良い日は富士山を眺めることが出来るなど、眺めと日当たりが良い立地です。 ●法人の理念は「ひとに光を」として掲げ、「利用者・家族・職員」3者全てに幸せの「ひかり」が当たる事業所作りを目指しています。この法人の理念を踏まえて、事業所では「みんなが主役」という独自のスローガンを作成しました。「やる気みなぎる入居者・笑顔で暮らせる家族・個性あふれるスタッフ」からなるスローガンは、職員が手作りで作成し、玄関に大きく掲示されています。これらのスローガンを常に念頭に置きながら、利用者・職員一人ひとりが「主役」となる場面を作るケアを心がけ、アットホームな施設作りを目指しています。 ●職員の教育については、人事評価制度を確立するとともに、新人教育を含めた研修制度が充実しています。人事評価は、「介護実践OJTシート」を活用しながら、自分・上司・他の職員の三者が評価するなど、オープンにすることで、仕事に対する意欲向上に繋がっています。また、法人研修では介護の知識やスキルを学ぶのは勿論のこと、職員一人ひとりの「心」も大切であると考えており、介護の知識やスキル、心を育てるなど様々な研修プログラムが組まれています。新卒を含めた社員教育のため、新人等若手の「事例発表会」も年一回実施しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームひかり川崎麻生
ユニット名	1階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・高齢者、家族、スタッフ3者にとってひかりある環境を提供する事を事業理念としている。・日々の関わりの中で、利用者や家族に対して理念を心がける事はもとより、イベントでは地域住民、自治会役員に関わる際にも、その理念を具体化していけるよう、管理者、職員とも努力している。	法人の理念である「ひとに光を」を踏まえ「みんなが主役」をスローガンに掲げています。「・やる気みなぎる入居者・笑顔で暮らせる家族・個性あふれるスタッフ」の3つを事業所理念の柱として、利用者・ご家族・スタッフの三者すべてに幸せの「ひかり」が当たるよう実践に努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に入り、回覧板を散歩の途中でまわしている。 ・入居前から通っている方と一緒に地域のコミュニティサロン「歌声広場」に毎月参加している。	自治会に加入し、回覧板を散歩の途中でまわしています。地域のお祭りでは、事業所の駐車場を提供して、利用者と一緒に出店を出して参加しました。入居前から通っている「歌声広場」に、地域ボランティアの援助を受け参加しています。また、認知症サポーター養成講座の講師を引き受けるなど、地域に根ざした事業所作りに取り組んでいます。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域包括支援センターと協力し、6月より「ひかりカフェ」（認知症カフェ）を開催、フロアで行ない、入居者と地域の方の交流も図ったり、地域の方の介護サービスにつながるきっかけにもなった。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月ごとの運営推進会議を行っており、自治会の役員も参加している。	運営推進会議は、事業所の応接室で平日、自治会役員・土地のオーナー・地域包括センター担当者・利用者家族等の出席で、2か月ごと実施しています。事業所の状況・活動報告の他、参加者から介護相談受けるなど、様々な意見交換を行う場として活用しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・認知症カフェに区役所の方が見学に来られる。随時相談があるときは連絡している。	地域包括と協力し、6月から認知症カフェ(ひかりカフェ)を開催しています。ウェルカムボードを購入し、事業所の入り口に設置したことで、1回目は市の職員も含め多くの人が集まりました。麻生区・多摩区のグループホーム合同連絡会に参加している他、区の研修会にも必要に応じて参加しています。また、管理者は、認知症介護実践者研修の指導者でもあり、要請により、研修指導や実習生の受け入れも行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 「身体拘束」についてのマニュアルを作成し、カンファレンスの中で取り上げている。 フロアのドアは施錠時間（13時～19時）を決めている。玄関の施錠はしていない。 	拘束については、本社の研修で行う「虐待防止」の中に組み込まれており、拘束における弊害等について理解を深めています。また、事業所でも「身体拘束」のマニュアルを作成し、自由に閲覧できるようにしています。職員の不適切なケアが見られた際には、カンファレンスの中で伝え、教育するとともに全職員で共有しています。過去に利用者が離接したこともあるので、安全確保のために、ユニットの出入りを時間を決めて施錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 「虐待防止」マニュアルを基に、カンファレンスで取り上げている。 入浴介助や着脱介護の際に身体の様子観察する等してサインを見落とさないように施設防止に努めている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンスで「成年後見人」について取り上げ学ぶ機会を提供している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 契約時には事業所の支援に関する考え方や取り組み、過去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明し、同意を得るようにしている。併せて利用者や家族の不安や疑問をたずね、十分な説明を行い、理解が得られるようにしている。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 玄関に「意見箱」を設置してあり自由に記入できるようになっている。 面会時に家族から出た意見、要望に関してはカンファレンスや、サービス担当者会議で取り上げケアプランに反映するようにしている。 	家族からの意見については面会時に直接意見・要望についてお聞きしていますが、玄関に意見箱も設置しています。また、利用者の近況をご家族にお知らせする「近況報告書」を写真を添えて送付しています。ケアプラン変更時にも必ずご家族にお越しいただき、ケアプランの説明と併せて意見・要望を聞いています。法人として、「お客様満足アンケート」を実施し、ご家族から直接、法人のQC（品質管理）室に送付される体制が整っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年に一度、社内でESアンケートを実施 ・QC活動でおもてなしをテーマに職員が環境改善等の提案をしている。	年2回、無記名の「従業員満足度アンケート」が実施され、直接法人に送付されます。法人は、環境改善を目的にQC（品質管理）活動を活発に行い、各事業所の管理者が集まる会議で、担当者がフィードバックしています。また、各事業所から上がっている意見を発表し、検討した後に運営に反映させています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアアップ制度を導入し職員の努力、実績を評価し、向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・BN研修、S2研修、新人研修等キャリアランク別の研修を今年度は実施 ・感染予防、介護記録の書き方等は社内研修お受けたスタッフからホーム内で他のスタッフへ研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・代表者が、全国認知症ケア実践者ネットワークLinkの世話役になっており、泊りがけの研修等に管理者や職員を参加させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・インテーク面接時に、本人（本人が意思を伝えられない場合には家族）から困っている事、どのような生活を望んでいるかを聞き、適切にニーズを抽出できるように努めている。 ・暫定プランを作成し、必要な時にはすぐ修正を掛けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用開始前に困っている事、不安に思っている事、を必ず伺うようにしており、ご家族からの要望があった時等は速やかに対応し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人様、家族様の希望されている事をまず伺ったうえで、本当に本人様に必要なものか、本人様の為になるものか見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自分で出来る事は自分で行っていただき、どうしても手を貸した方が良い時には一緒に行なうようにしており、支援する。介護される関係をなくし、支え合う同士としての関係を創れるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・8月の納涼祭や1月の新年会には多数のご家族の参加があり、一緒に楽しめる機会を設けている。またひな人形の組み立て等、毎年ご家族にお手伝いいただき、行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前に通っていた地域交流会に、現在も参加できる支援を行っている。・友人の訪問がある方もあり、関係がとぎれないよう努めている。	入居前から通っていた地域のコミュニティサロン「歌声広場」に他の利用者也伴って毎月参加したり、行きつけだった理・美容院にお連れして、顔なじみの関係が疎遠にならないよう支援しています。ご家族が海外に住んでいる方については、Skypeにてテレビ電話を出来るように取り次ぎも行ってました。近所に住んでいた方や友人の訪問もあり、関係が途切れないよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション（カラオケ、外気浴、ゲーム等）で、利用者同士の交流が深まるように支援している。 ・ユニットにこだわらず、自由に行き来できるよう努めている。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退去先の施設を訪問するなどし、先方との情報交換をしている。 ・退去した方のご家族が現在ボランティアとして関わってくださっている。 		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の会話からご本人の思いや意向がうかがえた時には介護記録に残し、情報共有している。ケースカンファレンスではそれらをふまえて介護者よがりにならないよう十分に注意している。 	<p>管理者は、職員の問いかけに対して素直な利用者程、何を望んでいるのかを汲み取ることが難しいと考えています。このことから、各利用者担当職員を決め、関わる時間を多く設けることで、日常の会話や観察を通じて、得られた情報等を介護記録に記入し、情報共有しています。また、毎月開催するケースカンファレンスでは、職員よがりにならないよう十分に留意しながら検討しています。</p>	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居審査時にご本人からお話を伺うと共に、ご家族から入居時に生活歴について書類を記入していただいている ・入居後もご家族から伺った内容を介護記録に記載し情報共有している。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護記録と業務日誌にて時間ごとの行動や変化を情報共有している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人より日々の関わりの中から希望を伺い、ケアプランに反映できるように努めている。 ・ご家族へのケアプラン説明を3ヶ月に1度面談で行ない、ご家族の意見も反映している。 	入居時に記入していただくアセスメントシートを基に暫定の介護計画を作成し、1ヶ月様子を見ます。その後、事前に職員へ渡している「サービス情報状況シート」の情報と利用者の生活の様子、医師や看護師、家族の意見も加味してケアプランを作成しています。ケアプラン更新時は、ご家族には事業所に来ていただき、直接説明しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の様子を介護記録に記入し、食事量や排泄、バイタルについてもチェック表に記入し情報共有やケアプランの見直しに活かしている。 ・ケアプランに基づいたケア記録の記入を行なっている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の状況に応じ、ケアプラン説明や入居契約、通院介助についても個々の状況に応じて対応している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（傾聴、将棋、外出付き添い、マジックショー等）スタッフに関わってもらっている。 ・床屋、美容室は送迎をしてもらっている。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居契約の際にかかりつけ医と「同意書」を交わしている。他の病院に行く際には紹介状を主治医に依頼し、スムーズに受診できるように努めている。 	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、本人・ご家族から希望があれば従来のかかりつけ医を受診していただいています。協力医療機関は月2回の往診がありますが、状況に応じて「聖マリアンナ医科大学病院」への紹介状を書いていただくこともあります。歯科医の往診は週1回、皮膚科も適宜往診を受けられます。契約している看護師は、毎週利用者の健康管理に来ています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回の訪問介護以外にも、担当看護師とSNSで繋がっているため、昼夜問わず連絡・相談ができる状態がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合はなるべくお見舞いに伺うと共に、ご家族から医師の話聞き、退院カンファレンスには極力参加させていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明している。実際に重度化が近くなった場合は、ご本人、家族にとって最良の方法がとれるよう支援している。	重度化に伴う対応方針については、入居契約時に説明しています。法人としては現在看取りはしない方針であり、重度化してきた場合には、ケアプラン作成時に移行について家族と話し合っています。要介護3になった時点では、特別養護老人ホームの申し込みを提案しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のファイルを作成し、救急車の呼び方、主治医、既往歴等記載し、事故発生に備えている ・H27年4月以降救急搬送なし		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を実施し、災害時の誘導等担当を決め迅速な避難が出来るよう努めている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っています。訓練の際は防災設備会社の立会い下、防災設備取り扱い方法や水消火器を使った実践的訓練も行っています。また、自治会の消防訓練にも参加しており、訓練時には、事業所の駐車場を提供しています。駐車場に防災倉庫を設置し、救急キッド、1週間分の飲料水・食料、簡易トイレ、発電機等、万全を期しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・排泄時、入浴時のプライバシーを守る対応をはじめ、声かけやよび方等はご本人やご家族に確認して行なっている。	人格の尊重とプライバシーについては、倫理・接遇マナー研修で学んでいます。呼称については「さん」付けを基本としていますが、本人やご家族の希望で、「名字」「名前」を使い分けて対応しています。介助する際は、本人の気持ちを第一に考え、自己決定を促すような言葉かけを心がけています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・認知症状が重い方でも、生活の中に選択肢を提示し、なるべく自己決定ができる機会を多くつくっている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・全体的な起床時間や消灯時間、入浴日も決めておらず、個々のペースに合わせている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・2か月に一度、訪問美容及び地域の美容室への外出を兼ねた支援をしている。 ・毎月の外出時に、おしゃれができるよう支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・スタッフと一緒に調理や盛り付け、片づけ等をおこなっている。 ・毎月外食の計画を利用者の意向を聞いて計画している。	食材とメニューは、食材提供会社を活用しています。法人のミール委員会での試食等をベースに、2年おきに業者を選定しています。行事（誕生日等）の際は、食材業者の発注を止め、利用者の希望メニューに変更しています。外食は利用者の希望を聞き、月に一度実施します。出来る方には盛り付けや片付けなどを手伝っていただいています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 各利用者の状態に応じて食事量を調整したり、必要に応じて補助食品を提供している。 水分量は1日を通して確保できるよう、スポーツドリンクやゼリー等に工夫して提供している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 週1の歯科往診を含め、口腔ケアの支援や口腔内の観察を実施している。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 排泄パターンを把握し、誘導や声かけ、排便の確認等、個々に合わせて支援している。 	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンの把握に努め、タイミングや定時のトイレ誘導を行っています。現在は、パットやリハビリパンツを使用している方はいませんが、おむつを利用している方はいません。使用済みのパットは、自分で処理できるよう新聞紙を渡すしたり、トイレでの排泄を促し、自立排泄に向けた支援を行っています。便秘対応では、おやつに牛乳、ヨーグルトを出すなどしています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳やヨーグルト等の食べ物での対策の他に運動や水分摂取等多角的に検討している。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 曜日は固定せず、個々のタイミングに合わせている。順番や温度等も個別の希望に合わせている。 現在同性介助の希望はないが、気にされていないか注意している。 	1日3名ずつのサイクルで、曜日は固定せず、利用者のタイミングに合わせた入浴支援を行っています。同性介助や毎日入浴を希望する方については、個々の希望に合わせた対応をしています。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用するなどして、いつもと違う雰囲気の入浴できるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間の良眠につながるべく、日中の活動を支援している。また昼寝等の休息も個々のペースに合わせておこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬説明書のファイルにてスタッフ間で情報共有している。 ・薬の与薬時の名前の確認や飲み込みの確認等のスタッフ間でおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活リハビリとして、これまでの生活にそった家事がきりよう支援している ・趣味についても継続できるよう、ボランティア等を活用し支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は外気浴や散歩に行っている。 ・毎月の外出は季節を感じられることも目的に入れながら、入居者の希望にそって計画をたてている。	天気の良い日は、必ず散歩に出かけています。利用者のADLに応じた散歩コースが3種類あり、個々のADLに合わせて近くの公園を含めた住宅地の中を散歩しています。また、月に一度の外出行事は、外食も兼ねて行い（梅の花・紫陽花・菊・イルミネーション・初詣）季節を感じてもらおうようにしています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には金銭管理は職員が行なっているが、外出時等にご本人がお財布から出す機会をつくれるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望については、ご家族の同意のもとに行なっている。またご家族への年賀状の作成等もサポートし行なっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有スペースにはエアコン、空気清浄機が設置されており、一年を通して適温が保たれている。 ・廊下やリビングの壁には入居者の作品や外出時の写真を展示し、季節感を出すよう支援している。	開放的なリビングは、憩いと和みの場所になっており、亀が飼われています。毎月の外出イベントでの写真（利用者のご家族等）を貼った「お知らせボード」も掲示することで、家族や友人が訪ねた時の話題作りにもなっています。また、リビングに飾られている絵画は社長が厳選した物を飾り、高級感を演出しています。エアコンはもとより空気清浄機も設置し、いつも適温を保っています。玄関、リビングには観葉植物があり、居心地が良く安心感のある場所になっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テレビの前のソファや廊下の長椅子等で、気の合った入居者同士、または一人で過ごせる空間が確保できるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時になるべくなじみの物やアルバム、家族写真等をお持ちいただくようお願いしている。	入居時になじみのある調度品や思い出の品を持ち込んでいただくように話し、なじみの物に囲まれながら落ち着いて過ごせる空間作りがされています。テレビ、机、筆筒などと共に趣味の作品、家族写真を飾り飾られ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・それぞれの居室には名前、トイレもマークを含めた表記でわかりやすく表示している。 ・新入居者が浴槽の出入りが困難ため、浴槽内に福祉用具のイスを設置した。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームひかり

作成日

平成28年3月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の認知症の理解不足を感じており施設でできることを検討していきたい 更なる地域貢献 	更なる地域貢献とご家族に対しても認知症の予防を含めた勉強会等を実施し、地域も含めた認知症予防に取り組みたい。	<ul style="list-style-type: none"> 地域に対して4月からの「青空体操」の参加の呼びかけ・ご家族に対して事例発表会を開いたり、講習なども行っていきたい。 	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームひかり川崎麻生
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・高齢者、家族、スタッフ3者にとってひかりある環境を提供する事を事業理念としている。 ・日々の関わりの中で、利用者や家族に対して理念を心がける事はもとより、イベントでは地域住民、自治会役員に関わる際にも、その理念を具体化していけるよう、管理者、職員とも努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に入り、回覧板を散歩の途中でまわしている。 ・入居前から通っている方と一緒に地域のコミュニティサロン「歌声広場」に毎月参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域包括支援センターと協力し、6月より「ひかりカフェ」（認知症カフェ）を開催、フロアで行ない、入居者と地域の方の交流も図ったり、地域の方の介護サービスにつながるきっかけにもなった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月ごとの運営推進会議を行っており、自治会の役員も参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・認知症カフェに区役所の方が見学に来られる。随時相談があるときは連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束」についてのマニュアルを作成し、カンファレンスの中で取り上げている。 ・フロアのドアは施錠時間（13時～19時）を決めている。玄関の施錠はしていない。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・「虐待防止」マニュアルを基に、カンファレンスで取り上げている。 ・入浴介助や着脱介護の際に身体の様子観察する等してサインを見落とさないように施設防止に努めている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスで「成年後見人」について取り上げ学ぶ機会を提供している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には事業所の支援に関する考え方や取り組み、過去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明し、同意を得るようにしている。併せて利用者や家族の不安や疑問をたずね、十分な説明を行い、理解が得られるようにしている。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に「意見箱」を設置してあり自由に記入できるようになっている。 ・面会時に家族から出た意見、要望に関してはカンファレンスや、サービス担当者会議で取り上げケアプランに反映するようにしている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年に一度、社内でESアンケートを実施 ・QC活動でおもてなしをテーマに職員が環境改善等の提案をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアアップ制度を導入し職員の努力、実績を評価し、向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・BN研修、S2研修、新人研修等キャリアランク別の研修を今年度は実施 ・感染予防、介護記録の書き方等は社内研修お受けたスタッフからホーム内で他のスタッフへ研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・代表者が、全国認知症ケア実践者ネットワークLinkの世話役になっており、泊りがけの研修等に管理者や職員を参加させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・インテーク面接時に、本人（本人が意思を伝えられない場合には家族）から困っている事、どのような生活を望んでいるかを聞き、適切にニーズを抽出できるように努めている。 ・暫定プランを作成し、必要な時にはすぐ修正を掛けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用開始前に困っている事、不安に思っている事、を必ず伺うようにしており、ご家族からの要望があった時等は速やかに対応し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人様、家族様の希望されている事をまず伺ったうえで、本当に本人様に必要なものか、本人様の為になるものか見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自分で出来る事は自分で行っていただき、どうしても手を貸した方が良い時には一緒に行なうようにしており、支援する。介護される関係をなくし、支え合う同士としての関係を創れるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・8月の納涼祭や1月の新年会には多数のご家族の参加があり、一緒に楽しめる機会を設けている。またひな人形の組み立て等、毎年ご家族にお手伝いいただき、行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前に通っていた地域交流会に、現在も参加できる支援を行っている。・友人の訪問がある方もあり、関係がとぎれないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション（カラオケ、外気浴、ゲーム等）で、利用者同士の交流が深まるように支援している。 ユニットにこだわらず、自由に行き来できるよう努めている。 		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 退去先の施設を訪問するなどし、先方との情報交換をしている。 退去した方のご家族が現在ボランティアとして関わってくださっている。 		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の会話からご本人の思いや意向がうかがえた時には介護記録に残し、情報共有している。ケースカンファレンスではそれらをふまえて介護者よがりにならないよう十分に注意している。 		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居審査時にご本人からお話を伺うと共に、ご家族から入居時に生活歴について書類を記入していただいている 入居後もご家族から伺った内容を介護記録に記載し情報共有している。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録と業務日誌にて時間ごとの行動や変化を情報共有している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人より日々の関わりの中から希望を伺い、ケアプランに反映できるように努めている。 ・ご家族へのケアプラン説明を3ヶ月に1度面談で行ない、ご家族の意見も反映している。 		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の様子を介護記録に記入し、食事量や排泄、バイタルについてもチェック表に記入し情報共有やケアプランの見直しに活かしている。 ・ケアプランに基づいたケア記録の記入を行っている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の状況に応じ、ケアプラン説明や入居契約、通院介助についても個々の状況に応じて対応している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア（傾聴、将棋、外出付き添い、マジックショー等）スタッフに関わってもらっている。 ・床屋、美容室は送迎をしてもらっている。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居契約の際にかかりつけ医と「同意書」を交わしている。他の病院に行く際には紹介状を主治医に依頼し、スムーズに受診できるように努めている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回の訪問介護以外にも、担当看護師とSNSで繋がっているため、昼夜問わず連絡・相談ができる状態がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合はなるべくお見舞いに伺うと共に、ご家族から医師の話聞き、退院カンファレンスには極力参加させていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明している。実際に重度化が近くなった場合は、ご本人、家族にとって最良の方法がとれるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のファイルを作成し、救急車の呼び方、主治医、既往歴等記載し、事故発生に備えている ・H27年4月以降救急搬送なし		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を実施し、災害時の誘導等担当を決め迅速な避難が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・排泄時、入浴時のプライバシーを守る対応をはじめ、声かけやよび方等はご本人やご家族に確認して行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・認知症状が重い方でも、生活の中に選択肢を提示し、なるべく自己決定ができる機会を多くつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・全体的な起床時間や消灯時間、入浴日も決めておらず、個々のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・2か月に一度、訪問美容及び地域の美容室への外出を兼ねた支援をしている。 ・毎月の外出時に、おしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・スタッフと一緒に調理や盛り付け、片づけ等をおこなっている。 ・毎月外食の計画を利用者の意向を聞いて計画している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 各利用者の状態に応じて食事量を調整したり、必要に応じて補助食品を提供している。 水分量は1日を通して確保できるよう、スポーツドリンクやゼリー等に工夫して提供している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 週1の歯科往診を含め、口腔ケアの支援や口腔内の観察を実施している。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 排泄パターンを把握し、誘導や声かけ、排便の確認等、個々に合わせて支援している。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳やヨーグルト等の食べ物での対策の他に運動や水分摂取等多角的に検討している。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 曜日は固定せず、個々のタイミングに合わせている。順番や温度等も個別の希望に合わせている。 現在同性介助の希望はないが、気にされていないか注意している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間の良眠につながるべく、日中の活動を支援している。また昼寝等の休息も個々のペースに合わせておこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬説明書のファイルにてスタッフ間で情報共有している。 ・薬の与薬時の名前の確認や飲み込みの確認等のスタッフ間でおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活リハビリとして、これまでの生活にそった家事がきるよう支援している ・趣味についても継続できるよう、ボランティア等を活用し支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は外気浴や散歩に行っている。 ・毎月の外出は季節を感じられることも目的に入れながら、入居者の希望にそって計画をたてている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には金銭管理は職員が行なっているが、外出時等にご本人がお財布から出す機会をつくれるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望については、ご家族の同意のもとに行なっている。またご家族への年賀状の作成等もサポートし行なっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有スペースにはエアコン、空気清浄機が設置されており、一年を通して適温が保たれている。 ・廊下やリビングの壁には入居者の作品や外出時の写真を展示し、季節感を出すよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テレビの前のソファや廊下の長椅子等で、気の合った入居者同士、または一人で過ごせる空間が確保できるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時になるべくなじみの物やアルバム、家族写真等をお持ちいただくようお伝えしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・それぞれの居室には名前、トイレもマークを含めた表記でわかりやすく表示している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームひかり

作成日

平成28年3月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の認知症の理解不足を感じており施設でできることを検討していきたい 更なる地域貢献 	更なる地域貢献とご家族に対しても認知症の予防を含めた勉強会等を実施し、地域も含めた認知症予防に取り組みたい。	<ul style="list-style-type: none"> 地域に対して4月からの「青空体操」の参加の呼びかけ・ご家族に対して事例発表会を開いたり、講習なども行っていきたい。 	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。